

平成26年度 群馬県ユネスコ連絡協議会予算

1 収入 単位:円

科目	予算額	摘要
繰越金	29,501	前年度からの繰越金
会費	514,000	4万円×12ユ協 ソロプチミスト1万円 会場使用料2千円×12ユ協
事業収入	400,000	新聞代2万円×12ユ協 名刺交換2千円×12ユ協80名
補助金	90,000	群馬県 9万円
雑収入	1,000	預金利子等
合計	1,034,501	

2 支出 単位:円

科目	予算額	摘要
会議費	40,000	理事会・役員会等会議費、会場費
旅費	60,000	各種交通費
通信費	30,000	事務用連絡用はがき・切手代
印刷費	10,000	コピー代
消耗品費	30,000	事務用品代
関ブロ群馬大会	254,000	負担金
事業費	556,000	
新聞発行費	250,000	ユネスコ群馬発行(70号)
単ユ協助成金	276,000	2万3千円×12ユ協
県ユ連総会	0	太田ユ協(前橋会場)
海外青年交歓研修会	0	
研修視察	0	
世界遺産委員会	30,000	
国際理解バス	0	各ユ協
運営研修会	0	
ユネスコスクール	0	
文化活動補助費	0	
構成員負担金	6,600	日ユ協年間負担金等・教育振興会
周年行事積立金	20,000	
慶弔費	10,000	
予備費	17,901	
合計	1,034,501	



「ユネスコスクール」とESD  
—現状と将来展望—  
藤岡地方ユネスコ協会  
会長 岸 正博

「主体性を持って、多様な人々と協働する力を総合的に身に付けること」を安西祐一郎中教審会長(日本ユネスコ国内委員会会長)が中教審の柱としてコメントしています。この次期学習指導要領の策定に向けた動きを注目しています。

昨年十一月、文部科学省は、中教審に対して「初等中等教育における教育課程の基準等のあり方」について諮問しました。今回の諮問のキーワードは、「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力」として、①OECDのキーコンピテンシー、②国際バカロレアのカリキュラム、③ユネスコのESDの三つを挙げています。

ESDは、二〇〇四年の国連の決議に基づき、ユネスコが主導している「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。ESDは、

学校教育の内外を問わず、行政や市民団体、企業などあらゆる団体、組織で連携を図りながら、教育・啓発活動を推進する必要があります。

その推進拠点として、ユネスコスクールがあり、現在、国内では八〇七校、県内小・中・高校では十六校が、パリのユネスコ本部より加盟承認されています。内容は、

文化の継承、国際理解、環境、福祉、人権など、多岐にわたっています。県内加盟校を次に挙げます。(前橋)大胡東小、第六中、(高崎)六郷小、(藤岡)美九里西小、日野小、鬼石北小、鬼石小、藤岡第二小、神流小、平井小、美九里東小、東中、北中、小野中(安中)新島学園中、高(沼田)利根実業高。

昨年十一月、「関東ブロックユネスコ活動研究会in群馬」では、前橋市立第六中と新島学園中・高の生徒会がユネスコスクールでの実践を報告・活動への展望を提案しました。また、岡山大学での「ユネスコスクール世界大会」第六回ユネスコスクール全国大会」ではESD大賞表彰式で、美九里西小が「企業特別賞ネスレヘルシーキッズ賞」を受賞するとともに、同大会分科会で、ユネスコスクールの優良実践校として、活動を紹介・今後の展望について発表しました。このように積極的に取組の発信を行っている学校が出ていくことは喜ばしいことです。

近年、グローバル化をはじめとして、私たちが取り巻く環境が変化する一方、文化、価値観等の多様性を尊重する必要性が高まっています。「平和」とともに「持続可能な開発」を目指すことは、質の高い教育の実践につながるものだと確信しています。